

ｽﾀｰﾃﾝﾄﾞ ｱｸｼｵﾝﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ

「甲南大学における持続可能な循環型コミュニティの創造 環境ボランティア活動」

## 第3回 環境啓発シンポジウム

持続可能な循環型コミュニティの創造

甲南大学における環境とマナーをめぐって

2003年12月11日(木) 14:40 16:10

甲南大学 10号館 10 22 教室

主 催

文学部人間科学科科目「環境学基礎論」

甲南大学文学部・谷口ゼミナール

共 催

省エネルギー・省資源推進委員会

協 力

甲南大学学生部・財務部・生活協同組合・関西明装・神戸エイコーサービス・対馬造園店

## 挨拶

### 環境啓発シンポジウムの開催にあたって

谷口 文章 (甲南大学文学部 教授)

2003年7月に「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」が制定(10月1日施行)され、環境保全活動と環境教育の推進が積極的に目指されようとしています。特に教育、行政、NGO/NPOs、研究機関、企業等の各セクター間のパートナーシップの推進、そして協働参画の基で展開される環境教育の躍進が期待されています。

現在、様々なレベルでの環境(たとえば、自然環境、社会環境、心の環境)問題が深刻化していますが、私たちのゼミナールでは、地域性に根ざしたローカルな活動と国際的な視野を含めたグローバルな交流活動を展開し、地球規模で起こっている環境問題への解決に向けての取組みを行なっています。

まずローカルな活動として、自然環境問題である奇形ザルの問題、社会環境問題である水俣病をめぐる問題をテーマにし調査活動を継続して行なっています。また、近年においては甲南大学のキャンパス内及び甲南大学環境教育野外施設(広野)において、環境教育の活動を展開しています。活動の一環としましては、キャンパス内の緑化活動や野外施設での有機農法による農作業などのフィールド・ワーク、また甲南3法人(甲南幼稚園・小学校/甲南中・高等学校/甲南女子中・高等学校)教育プロジェクトにともなう環境教育ボランティア活動などを行なっています。また、環境教育野外施設(1999年)と甲南大学キャンパス内(2001年)においてビオトープ(生命の生息域)をつくることによって、自然環境の創造と復元も試みています。

さらにグローバルな活動として、タイ・中国・カナダを中心として学生会議を行なうなど、若い世代間での意見交流を行ない、国際的な環境問題解決のためのネットワークの構築を促進しています。今夏は、カナダ・ヴィクトリア大学 環境学部開講によるフィールド・コース「民俗植物学と環境哲学 - 南ブリティッシュ・コロンビア州フィールド・コース Ethnobotany and Environmental Philosophy: A Field Course in Southern British Columbia」(期間: 7月22日~30日 / 指導教授: Nancy Turner 教授 [ヴィクトリア大学・環境学部] 谷口文章教授 [甲南大学・文学部])に大学院生・研究生が参加してきました。このフィールド・コースは、ヴィクトリア大学環境学部との協働企画によって実現し、学生間での学術的な文化交流を実現したものでした。ブリティッシュ・コロンビア州の南部にあるファースト・ネーションズ(カナダ先住民民族)の居留地をめぐり、先住民の歴史・伝統・文化、ライフスタイルに触れながら、先住民の人々が現在抱える土地利用、自然保全の問題、さらに環境問題について学び交流をしてきました。これらの活動を通して、私たちはグローバルな視野から地球環境問題を捉え直し、さらに、地域に根ざした環境問題に取り組んでいます。

また、本年度は「持続可能性」を一つのキーワードにしながら活動を行なっています。日々私たちが使用して廃棄していく無駄な資源をいかに減らし、持続可能な「循環型コミュニティ」を実現するかについて、努力しています。その一環としての本シンポジウムも第3回目を迎え、甲南大学にかかわる人々の環境意識の向上と循環型コミュニティをめざす上での、パートナーシップの促進を行なっています。本企画を通じて、甲南大学学生の環境啓発の意識が深められ、さらに環境ボランティア活動につながることを期待しています。

本シンポジウムを通じて、甲南大学に関わる一人ひとりが環境意識と環境モラルの向上について“気づき”と“行動”へと結びつけていくための一助となることを願ってやみません。

今回の開催にあたりましては、甲南大学 省エネルギー省資源推進委員会・大学学生部・財務部・大学生生活協同組合・清掃業者・守衛室・対馬造園店など諸機関の皆さまに御協力と御参加を賜りました。心より御礼を申し上げる次第です。また「環境学基礎論」の受講生にも、感謝の意を表したく思います。

# プログラム

14:40 挨拶 谷口 文章 (文学部 教授)

14:50 環境啓発シンポジウム

コーディネーター：谷口 文章

シンポジスト：植村 亮介 (学生部学生課長)

「甲南大学における 禁煙・喫煙 について」

松澤 喜一 (財務部次長)

小花 直樹 (財務部管財課長)

「甲南大学の光熱水費」

南方 幹生【関西明装(株)】(清掃業者)(守衛室)

広野 剛史【(株)神戸エイコーサービス】(清掃業者)

「甲南大学における分別ゴミの量とその状況について」

戸田 健【(株)対馬造園店】(造園業者)

「大学内の諸工事における樹木の移植について」

隅田 幸博 (甲南大学生生活協同組合専務理事)

長谷川 真一郎 (甲南大学生生活協同組合理事会室 副室長)

「第39回摂津祭でのリサイクル活動報告」

中谷 修文、白井 義清、中岡 生瀬、野田 かおり (環境学基礎論受講生)

「循環型大学へ」

三浦 亜理沙、中村 紗綾佳、中山 智草、長谷川 絢子 (環境学基礎論受講生)

「甲南大学のポイ捨ての現状」

高木 敬子 (文学部谷口ゼミナール代表)

「『自給自足生活の体験学習塾』設置の提言」

15:40 ディスカッション

16:00 総括 谷口 文章

16:10 閉会

---

環境啓発シンポジウム・実行委員会組織

実行委員長：谷口 文章 教授

谷口ゼミ・学生部・財務部・大学生協・神戸エイコーサービス・関西明装・対馬造園店・環境学基礎論受講生

---

## 甲南大学における - 禁煙・喫煙 - について

植村 亮介 (学生部学生課長)

あの忌まわしい震災からもうすぐ9年を経過しようとしております。倒壊した校舎も新しく建設され、その後も、2号館や5号館が新しく建設されました。新しく建設された校舎を含め、**校舎内の美観を守るため、また、ごみ処理、火災の防止等**により、建物内全面禁煙を2001年度から実施しております。

学生諸君には、入学時、学生生活指導ガイダンスにおいて、建物内での喫煙を禁止している。また、「通学中のマナー」として(タバコのポイ捨て、通路いっぱい広がる歩行など近隣の皆様にご迷惑かけ続けています。マナーある行動・清潔な通学路にしましょう。)をガイダンスにて伝えております。

本来、喫煙は、20歳を過ぎてからと決められていますので、新入生のガイダンスに伝えるのはおかしいかもしれませんが、キャンパスマナーの一つとして遵守してくださいとお願いをしています。

喫煙に関しては、平成12年12月に『21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21)』が策定され、平成15年5月には『健康増進法』が施行されました。

これに伴い、ガイダンスのみならず学生部医務室では、掲示やインフォメーションボードにて禁煙のすすめを行い、管財課では、3号館北側を中心として、建物の入り口に灰皿を置いて特定をした分煙を実施しております。

本年3月、和歌山大学では、大学内全面禁煙を実施する旨を学生とで取り決め実施したとの新聞報道がありました。この件に関し、11月に開催された近畿地区学生指導研究会において、各大学での「禁煙に対する取り組み」についての報告会がありました。

この報告会では、概ね各大学では、建物内禁煙等の分煙に取り組んでいるとのことでした。

昨年・今年と、学生自治会と理事長・学長懇談会において学生自治会から「構内全面禁煙として欲しい」との要望がありました。学生自治会発行の11月13日発行のJ-PRESSでのアンケート結果によると喫煙場所を出入り口にしないで下さい。(文・日文・3回・女)との記載があり、学生自治会からの<要望事項>に「構内の全面禁煙」と記載されております。

この要望に関し、**禁煙と喫煙**に関し大学として更なる取り組みが必要と考えますので、学生諸君、教職員の協力をお願いいたします。

なお、学生部で取り組んでいる掲示物や、インフォメーションボード、講演会に関し次のとおり実施しております。

## 掲示物

1. ご存知ですか？ 5月1日に『健康増進法』が施行されました。癌、脳卒中、心臓病等の生活習慣病の増加が社会的な問題となつていますが、これを予防するために平成12年3月に『21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21)』が策定され、この法的基盤として本年5月1日に『健康増進法』が施行されました。同法では、個人、事業者、学校、行政等が、それぞれの立場で健康増進に努めることが法的に義務付けられています。特に、学校、体育館、病院、劇場、百貨店、飲食店、官公庁施設、その他、多数の者が利用する施設の管理者に対し、受動喫煙を防止するために必要な措置を講じるように求めています。

〔受動喫煙とは〕自らの意思とは関係なく、環境中のタバコの煙を吸うことです。タバコの煙は、喫煙により直接吸い込まれる主流煙と、火の付いた部分から立ち上る副流煙とに分けられますが、ニコチン等の有害物質は、主流煙よりも副流煙の方が2倍から4倍以上多く含まれています。

建物内での喫煙は禁止。

本学では、建物内での喫煙は禁止しております。タバコを吸われる方は、灰皿等が設置された指定場所を利用するようにしてください。

喫煙マナーを守りましょう。

タバコを吸われる方は、他の者に迷惑がかからないよう心掛けてください。特に、以下の点について十分な配慮をお願いいたします。

- (1) 喫煙は定められた場所で行いましょう。
- (2) 歩行中の喫煙はやめましょう。
- (3) タバコのポイ捨てはやめましょう。
- (4) 周囲に人がいる場合は、ひと言断ってから喫煙するように心掛けましょう。
- (5) 健康のために吸い過ぎに注意しましょう。

2. けむり公害について考えましょう。混雑している場所での歩きながらの喫煙は止めましょう。

3. 平成15年5月1日に健康増進法が施行されました。喫煙場所以外でタバコを吸うのは止めましょう。

4. タバコのポイ捨ては止めましょう。

## インフォメーションボード

1. グッドマナーのすすめ。

- (ア) タバコのポイ捨ては止めましょう。
- (イ) 歩きながらの喫煙は止めましょう。
- (ウ) 喫煙場所以外でタバコを吸うのは止めましょう。

## 講演会

日時 平成15年10月28日(火) 午後2時40分(4限目)  
場所 甲友会館大ホール  
講師 神戸アドベンチスト病院内科医 藪(石川)はじめ 先生  
演題 『未来への賢い選択のために～タバコの真実を知ろう～』

**次のような悩み・疑問を抱いている方は是非参加を！**

- タバコをやめたいがなかなかやめられない。
- タバコをやめさせたいが良い方法がない。
- 喫煙による健康への害について知りたい。
- 喫煙すると本当に痩せられるのか？
- 健康を損なうのは喫煙者だけか？

## 甲南大学の光熱水費

小花 直樹（財務部管財課長）

甲南大学でどれくらいの光熱水費（電気・ガス・水道の各費用）が使われているのかをご紹介します。現在大学では省エネルギー・省資源委員会を展開し、できるかぎりムダな費用を抑える運動を進めたいと考えております。（データは2002年度数字、一人あたりの金額は教職員学生数で割っています。）

### 電気代

19,098円

電気代は199,305,290円！

電気料金は年間ピークの電気使用量が“契約電力”として基本料金となり、それに加えて使用料が適宜加算される仕組みになっております。その結果、日頃の節電と夏冬の電力使用ピーク時の使用抑制が節減の目玉となります。大学では電力契約見直しをしております。

### ガス代

3,073円

ガス代は32,073,114円！

ガスも契約基本料との考え方もあります。ただ供給形態の変更もあり、使用上限まで多少のゆとりがあったため、学内のいくつかの施設（例えば9号館）では電気からガスに変えたところもあります。なお温度設定を夏冬1調整すると年間160万円費用が少なくなるとの試算もあります。

### 上水道代

5,600円

水道代は58,437,128円！

飲み水からトイレ使用時まで、また大学では樹木への散水にも使用しております。大学では節水弁の取付けや女子トイレにはいわゆる“乙姫様”と言われる消音装置を設置することで、節水に努めています。ちなみに沖縄や四国の大学では夏場の断水を避けるため、節水に取り組んでいるとの話です。

左側の金額は一人あたりの年間額です。

大学で教育及び研究に使った費用は“教育研究経費”と呼ばれていますが、その経費に占める光熱水費の割合は実に9.2%となっています。大学の規模（学生数）が異なるので比較は困難ですが、近隣大学でも1割弱を占めております。もちろん必要な支出ではありますが、環境や資源を考えると、この数字をできれば抑えたいものです。

皆さん自身でできることがあります。“できること、取り組んでみましょう！”

(例)・最後に教室を出るときは消灯しましょう。

- ・手洗い後の水道の蛇口はしっかり止めましょう。
- ・ゴミは分別して出しましょう。

## 《参考資料》

8月より再開した“省エネルギー・省資源委員会”の活動まとめを掲載致します。(一部字句修正あり)

2003/9/23

### 省エネ委員会の活動について

#### ( 経過 : “2003年度夏期休業期間中の省エネ、夏期休暇以降も継続して実施予定 )

- ・ 空調(冷房)は26度設定厳守の取組みをおこないました。また、室内温度が高くなるため、ノーネクタイでの勤務を提案致しました(部局によっては業者との接遇のため、実施できない部局もあり。ノーネクタイの“強制”ではなく、ノーネクタイを“認めましょう”、との意味です)。
- ・ 昇降機について、3台稼働しているもの(2号館・3号館)については2台の稼働にしました。  
1回稼働するのに、10円程度の電気代が節約できます。
- ・ 昼休み時間(12時から13時)は、廊下・ホール・教室の空調を停止しました。
- ・ 午前10時から16時は廊下・ホール・(使用していない)教室の照明を消灯しました。但し、利用する教室及び外光が入らない廊下については、照明を行いました。
- ・ 必要以上に明るいと思われる場所については、実地調査の上、蛍光灯の間引き(約2,000本を目処に)を実施しました。契約電力や電気の契約種類(特別高圧、高圧等)によって金額が異なりますが、1kw/hで約18円の経費節減(本校舎の場合)がなされた見込みです。
- ・ 第三者機関(コンサルティング会社等)に依頼し、無料省エネ診断をおこないました。
- ・ 有志職員を中心に、省エネ実行部隊を組織して、蛍光灯の無駄をなくすべく、活動中です。

#### ( 秋以降のとりくみ )

##### 1. 省エネ委員会の基本方針

「環境問題とマナーの向上」、「経費節減」の2点を基本とします。  
財務部より、主に職員が実施できる「案」を提出しました。

##### 2. 「スケジュール」

- ・ 2003年度第2回省エネ委員会(10月7日開催、その後も適宜開催します)
- ・ 実行委員会を組織
- ・ 10月末までに具体的な案を作成し、11月に全体会議を開催予定。実行可能なことは順次実施。
- ・ 「経費節減」に関する取組みについては、次年度予算(2004年度)に反映

##### 3. 「省エネ委員会」の組織と資料

- ・ 「省エネ委員会」の検討項目は、次の5つ。

「光熱水費」

「消耗品・用品・備品」

「通信運搬費」

「印刷・製本費」

「環境問題」(「ごみ(廃棄物)」、「教職員・学生のマナー向上」)

- ・ 「実行委員会」は上記のそれぞれの項目について検討しますが、特に「実行委員会」の取組む項目は、次の3つ。

「光熱水費」

「通信運搬費」

「環境問題」(「ごみ(廃棄物)」、「教職員・学生のマナー向上」)

- ・「実行委員会」のメンバーは教職員、学生、大学生協等に呼びかけて組織します。
- 10月22日 発足会議
- ・検討資料としては、「1998年度の省エネ委員会報告書」。

#### 4. 実行時の学園構成員への協力要請

- ・教学(大学)には、「部局長会議」や「教授会」をとおして協力を要請。
- ・事務組織には、「水曜会」や「部課長会」をとおして全職員に協力を要請。
- ・学生には、学生部をとおして「自治会」、「体育会」等へ協力を要請。
- ・大学生協は、省エネ委員になっていただき、生協の学生組織へも協力を要請。
- ・KSC(甲南学園サービスセンター:学園の持つ子会社です)にも協力要請。
- ・管財課発の省エネ啓蒙ニュースを発行する(職員向け・季刊発行)。

#### 5. 「光熱水費」についての取組み。(財務部管財課からの提案)

##### 1) 電気について

##### (電力)

校地ごとの電力使用ピーク時を調査し、契約電力を見直す。契約電力が500kw/h以下の場合はデマンドで関西電力が自動的に見直していることから、500kw/h以上の契約について見直しをおこなう。また、500kw/h以下の場合も敷地ごとの省エネを検討。

学生会館敷地の高圧契約を特高電気に変更して電力料金を削減。この措置により、年間約4,500,000円の削減可能。現在、通商産業省に問合せをおこなっている。ただし、10,000,000万円前後の工事費が必要。

コピー機(ゼロックス)の統合整理をおこなって設置台数を削減して消費電気を節約。

現在、検討中。

コピー機(ゼロックス)は昼休みには電源を切る(OFF)。利用者に要請するとともに、テプラを貼って利用者に周知する。年間の電気使用料の削減額は調査中。

学内敷地内のタバコ自販機を撤去できないか。ただし大学生協購買部での販売は行なう。

自販機(飲料水等)の電気使用料の圧縮。大学生協やKSCが設置している自販機の電気料金のうち、半額負担を交渉中。交渉がまとまれば年1,000,000円の電気代が戻入。

##### (空調関係)

今後も取替え時に省エネタイプの空調を検討。夏期冷房時期には、すべての校舎を対象として電気のピーク時カットを実施。契約電力の上昇(アップ)を止める。

「情報教育研究センター」のサーバ室の空調を個別空調に変更し、24時間対応型空調に変更することを検討する。また、集中管理が適当でない部署等について検討。

夏期の冷房温度を26から原則27に変更(休業期間途中から)。

昼休み時間は教室の空調を停止(特に夏期休業期間)。計算上では、「本校舎電気空調費用:1時間約8,000円」、夏期期間の4ヶ月(約90日)実施で「8,000円×90日=720,000円」の削減。

各室の空調もこまめな「オン/オフ」を推進。経費節減を教職員、学生に願います。

##### (照明関係)

各部屋の照度を調査し、蛍光灯を減らす。事務室は500ルクスを指標とする。

照明器具(蛍光灯等)と安定器のインバータ化を推進。ただし、既設照明器の取替は、清掃時や照明器の取替時期にあわせて実施。投資額は約3年前後で回収が予定されるもの。

室内照明を効率的なエリア別スイッチに投資せずに変更できないかを検討中。

夏期休暇期間中の蛍光灯抜き、2,000本目標。2,000本×40w(蛍光灯)=80,000w、80kwh×18円×10時間(一日の使用時間)×300日(1年間)=約4,320,000円。蛍光灯の購入も抑制できます。

照明のこまめな「オン/オフ」を推進し、経費節減を教職員、学生に要請。

##### (パソコン関係)

1時間以上席を空ける場合(会議等)にはパソコンの電源(本体、ディスプレイ、プリンタ)を落とす。

昼休みは、パソコンとプリンターの電源を落とす。



こまめな「オン/オフ」を推進。教職員、学生にお願いできないか。

2) ガスについて

電気料金のピーク時カットのために、ガス空調(GHP)を検討のうえ導入。  
本年度夏期休暇中工事で、9号館(1F~3F)、10号館(1F~3F)をガスに変更。

3) 水道について

岡本校舎敷地への散水を井戸水の散水が可能かどうか、検討する。  
7号館(理工学部:実験施設・設備を持つ校舎)の水道使用量の削減に取り組む。  
トイレ関係にかぎらず、すべての水道蛇口に節水弁をとりつけることを検討。

(2002年度までの「省エネ」活動)

電気:

- (a) 岡本校地の契約電力のピーク時カットをおこなうため、特定校舎(10号館、図書館等)の冷房を30分~1時間で停止するなどの措置をおこなっている。
  - (b) 照明用安定器を省エネタイプに取り換えつつある。
  - (c) エレベータや空調にかかわらず、パソコンやプリンター、コピー機等、学園が設置する機器については省エネタイプを推奨しつつ、導入をおこなっている。
  - (d) 業務が終了すれば事務用電化製品(PC、プリンターやゼロックス等)の電源を切る。
  - (e) 蛍光灯や白熱灯の本数減らし。1998年から1999年にかけて、約1,000本ほどの蛍光灯等を間引いた。
- 空調について:空調の管理台数は、室内機で約2,600台を数えます。
- (a)空調機の効率化のために、フィルター(室外機、室内)を4月と10月に清掃している。
  - (b)本校地の校舎(1号館、2号館、3号館、5号館、6号館、8号館、9号館、10号館)のうち、集中管理(教室、演習室、事務室、会議室等)の部屋は、マルチガスヒーポン(GHP)に変更済。個別空調(研究室等)にもマルチガスヒーポン(GHP)を導入(9号館等)するなど、ガスとの併用により、電気使用量のピーク時抑制(デマンド管理)を実施。

水道:

- (a)校舎の共用水道設備(トイレ等)に節水弁を設置。これまでに、1,2,3,5,6,7,8,9,10,HRC、学友会館、三木記念体育館、六アイ体育館に632個の節水弁を設置済。男子小便器もセンサー式に変更し、女子のトイレには節水器の「乙姫様」なども新校舎(5号館、6号館)には、順次設置。約10%の水道料(本校舎)が節水できているが、今後も取り組む。

「大学生協」との取り組み:

- (a) ごみとして排出されるペットボトルを回収し、リサイクル処理。廃棄物処理経費を削減。
- (b) 学内自動販売機を「紙コップ」にして回収し、リサイクル処理。紙コップの回収率を高めるためにデポジット式自販機(回収機に入れれば、10円が返却される)も導入(1号館3階,5号館1階,甲友会館)。既存自販機も順次、デポジット制に変更予定。

廃棄物:

- (a) 一般廃棄物:燃えるごみ以外の廃棄物は「産業廃棄物」のため「マニフェスト」による管理。ごみ費用が上昇しており、経費増。大学生協と協力して「廃棄物」の削減に取り組中。「缶圧縮機」(学園購入)や「生ごみ処理機」(生協購入)を設置し、廃棄物の量を削減。
- (b) リサイクル:「ダンボール、新聞、コピー用紙、アルミ缶、スチール缶」の分別をおこなっている。すべての学園構成員のマナーが向上しないと実効性が少ないので、「タバコのポイ捨て」とともに、マナーや環境問題として取り組みをおこなっている。
- (c) 「特別産業廃棄物」は管財課主管である「排水管理委員会」のなかで取り組んでいる。新マニュアルや手順書を作成している。今後も継続して取り組む。

# 甲南大学における分別ゴミの量とその状況について

南方 幹生【関西明装（株）】（清掃業者）（守衛室）

## 1、ゴミの分別に関して

### 1) ゴミ箱に関して

#### ①教室内のゴミ箱の撤去（1・2・3・6号館）

廊下に3分別ゴミ箱の設置（燃えるゴミ・ペットボトル・カン、ビン）

回収毎日3回（朝・3時限目・4時限目）

ゴミの量1回目 60% 2回目 100% 3回目 40%

1・2・3号館分別ゴミ箱



6号館分別ゴミ箱



#### ②敷地内のゴミ箱

敷地内に4分別ゴミ箱設置（燃えるゴミ・ペットボトル・缶、ビン・燃えないゴミ）

回収毎日3回（朝・13時・15時）

ゴミの量 1回目 70% 2回目 80% 3回目 30%

図書館北前



1号館南



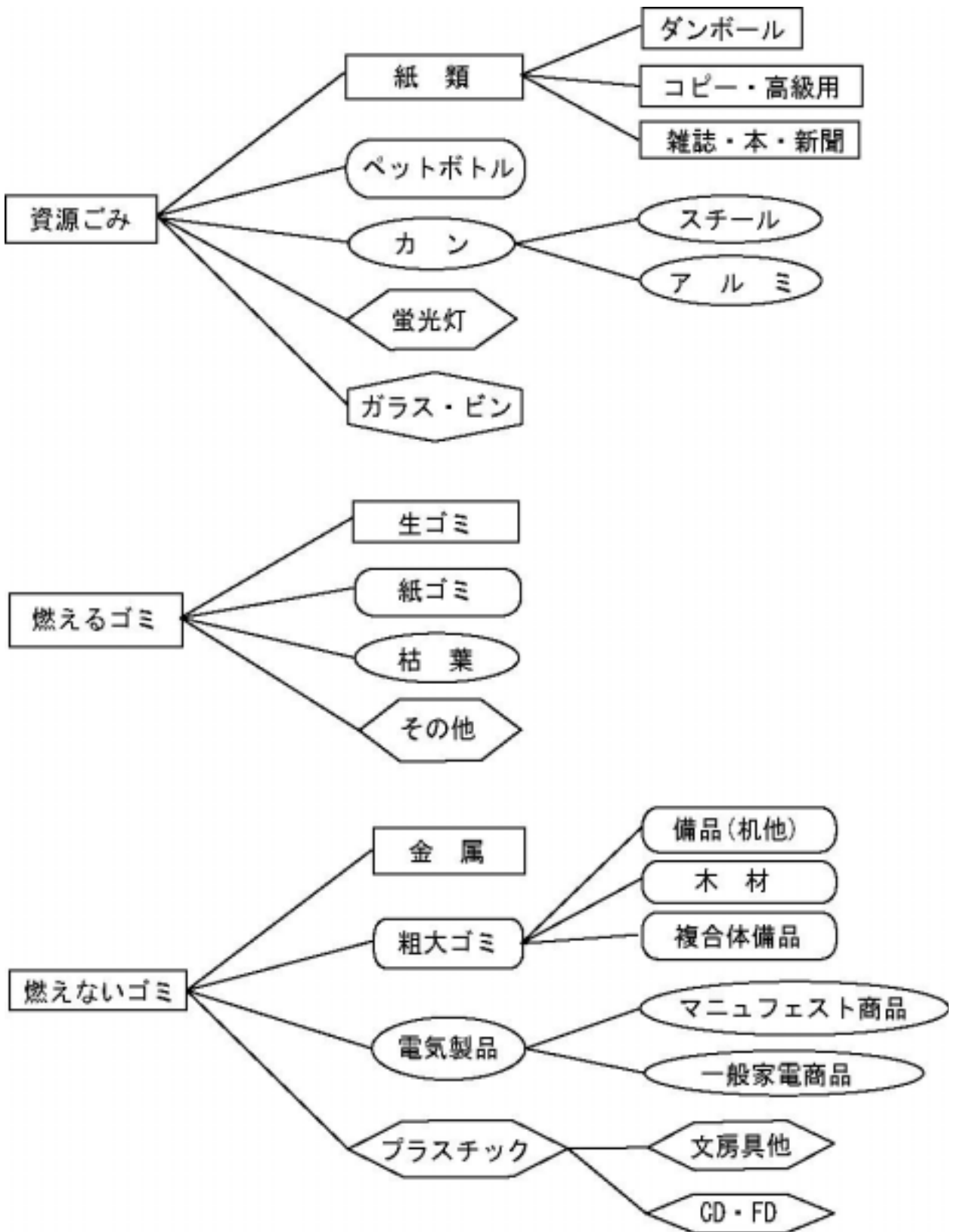
#### ③ゴミ箱の分別状態

4月～ 5月 6 : 4 の割合でゴミが混じっている状態

10月～ 11月 8 : 2 の状態

ペットボトルは90%以上の状態

2) ゴミ集積所  
①分別項目



ペットボトル



空き缶の選別



ダンボール



manifesto



蛍光灯



粗ゴミ (産業廃棄物)



粗大ゴミ



燃えるゴミ (集配後)



本・雑誌・新聞



- \*燃えるゴミ…午後12過ぎ集配
- \*本・雑誌等…ダンボール100ヶ位で集配
- \*粗大ゴミ…4トトラックで集配  
(金属・木材別に集配)
- \*蛍光灯…1年間保存
- \*ダンボール…保存倉庫が満杯で集配
- \*缶…圧縮し保存 (ステン・アルミ別)
- \*ペットボトル…ゴミ袋10ヶ以上

2、ゴミの量

1) 毎日出る燃えるゴミの量 (ビニール袋90リットル)

号館	朝	昼	夕	小計
1号館	3	2	1	6
3号館	6	2	1	9
2号館	4	2	1	7
6号館	2	1	0.5	3.5
9号館	3	1	0.5	4.5
11号館	1	0.5		1.5
18号館	1			1
図書館	1	1	0.5	2.5
体育館	1		1	2
4号館	0.5			0.5
学生会館	1	1	0.5	2.5
文化会館	1			1
5号館	6	2	1	9
10号館	6	2	1	9
甲友会館	1			1
生協	2	2	1	5
各事務局	3			3
外周	5	3	1	9
合計	47.5	19.5	10	77

\*曜日・月により変動あり

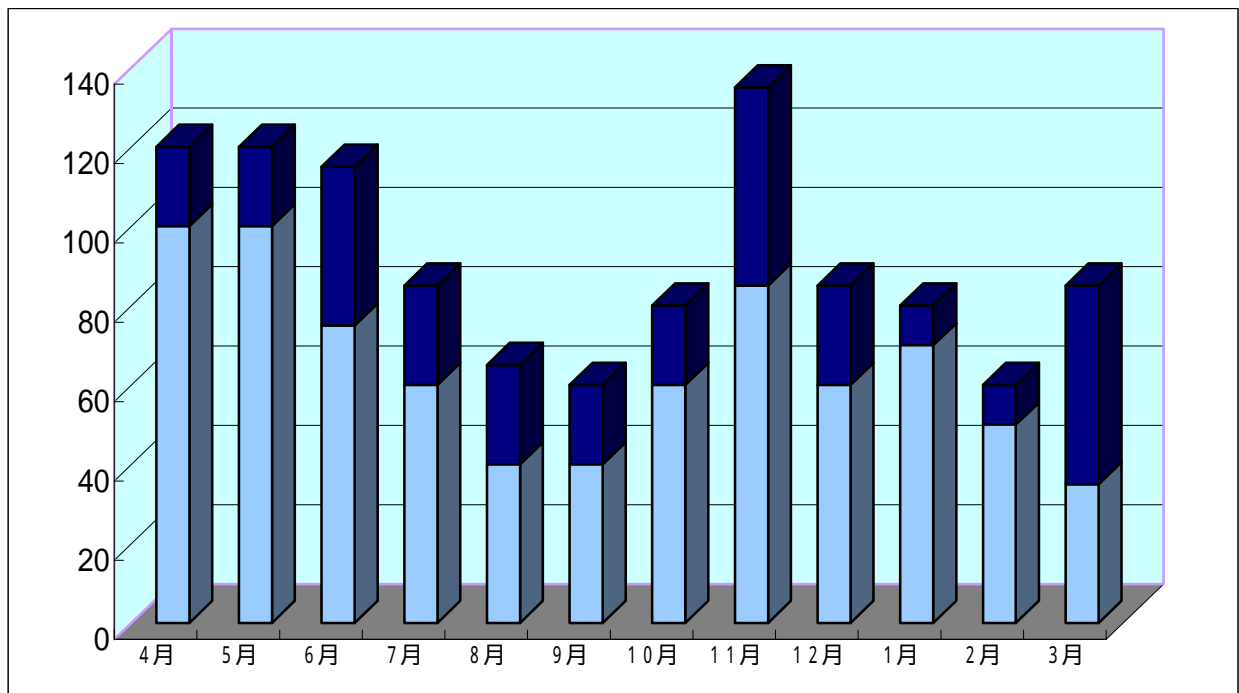
\*体育館は対抗試合等で  
変動あり

\*学園祭等で多量のゴミ  
が出る場合あり

\*4・5月は通常の月より  
20%増

2) ゴミの量の月の変化 (4月ゴミの量100・粗ゴミ20とした場合)

■ 一般ごみ ■ 粗ごみ



(続き資料)

## 大学施設の利用マナーの現状

### 1. 器物の破損について

- ①ガラスの破損
  - ・ 体育クラブ部室・学生会館
  - ・ 6号館外壁・講堂兼体育館壁面
  - ・ 1号館1階踊り場・3号館階段
- ②らくがき
  - 各教室内
- ③穴あけ

### 2. タバコ喫煙

- ・ 禁煙場所にかかわらず喫煙  
便所・階段・開き窓（窓枠サッシに吸殻を捨てる）
- ・ ポイ捨て  
各館入り口に関して、吸殻入れ撤去  
（喫煙場所を限定指定）  
ポイ捨て禁止のポスター設置  
各館入り口のポイ捨てなくなる

### 3. 電気・エアコン等の使用状況

- ①教 室
  - 使用届けが出ていても使用状況が巡回時にしか把握出来ない  
（無人にも係わらず照明・エアコンが点いている）  
休講・使用しない教室の照明・エアコンがついている  
（警備巡回の変わりに清掃部員が巡回時に消灯）  
各教室の入り口に消灯のお願い書を添付  
（4時以降は職員による巡回にて消灯）
- ②研究室
  - 先生の管理下にあるためさわる出来ない
- ③5号館
  - 使用届けがでていないと18時に退出となり不要な照明等がなくなる。  
（18時巡回）

### 4. 学生の気質に関して

- ①要望は良くされますが、ゴミや扉・窓ガラス等の後始末が出来ていない学生さんが一部見受けられます。
- ②大学祭等の組織的な活動、または責任者としての指導・指揮・命令系統が十分に出来ていないように見受けられます。

## 大学内の諸工事における樹木の移植について

戸田 健【(株) 対馬造園店】(造園業者)

- 1) 工事名 10号館 守衛室改修工事
- 2) 工期 平成15年8月1日～平成15年9月15日
- 3) 移植樹 クスノキ H=10m 株立ち W=5m 重量 7500kg

趣旨 正門に面しており株立ちで樹形もよく記念樹的な要素をもっている。

環境に関しても伐採すればコストは下がるが、環境破壊になるため移植する事にしました。

移植とは

既存樹木を掘り取って生育地の異なる場所に移動し植え付けることです。

作業工程

剪定 → 掘取り → 根巻き → 運搬 → 植付け  
(せんてい)



写 - 1  
剪定作業

移植の場合、根を切断する為、水分の吸収が少なくなり、蒸散作用のバランスがくずれ、放置すると樹液が濃厚となり樹木の衰弱は免れない。  
したがって蒸散作用抑制のため剪定作業を行う。

使用機械 25トン ラフタークレーン  
24m 高所作業車



写 - 2  
掘取り

根元直径の3～5倍が鉢の大きさです。

W=3.0m H=1.5m

使用機械 25トン ラフタークレーン  
バックホー 0.1 m<sup>3</sup>



写 - 3  
根巻き

樹木を移植する際に、根を乾燥させない。  
細根を保護する。  
鉢が壊れないようにする。  
活着をたかめる。

吊り込み  
使用機械 25 トン ラフタークレーン  
11 トン トラック

写 - 4



写 - 5  
運搬  
移植先 甲南大学三木記念体育館北

使用機械 25 トン ラフタークレーン  
11 トン トラック

植付け

写 - 6

使用機械 25 トン ラフタークレーン  
11 トン トラック  
バックホー 0.1 m<sup>3</sup>





- 1) 工事名 13号館 新築工事
- 2) 工期 平成15年7月20日～平成15年7月30日
- 3) 移植樹 ソテツ H=4.5m 株立ち W=3m 重量 3500kg

旧17号館前に既存していた樹木で大変樹形がよく高さも4.5mと高くりっぱな樹木である。



写 - 1 移植作業前

写 - 1 移植作業前



写 - 2 掘取り作業中



写 - 3 根巻き作業中

写 - 4 積み込み



写 - 5 植付け

移植先 甲南大学三木記念体育館

写 - 6  
平成 15 年 12 月 1 日現在  
甲南大学三木記念体育館北



## 第39回摂津祭でのリサイクル活動報告

長谷川 真一郎（甲南大学生生活協同組合理事会室 副室長）

### はじめに

摂津祭でのリサイクル活動も今年で3年目を迎え、例年に無く、企画段階から模擬店実施委員会ならびにスチューデントアクションとの打ち合わせを重ね、摂津祭でリサイクルに取り組む目的と目標について共有をしました。企画についての打ち合わせ会議は、立ち上げ準備段階から数えると、8回に及び、そのため、それぞれの団体としての立場を越えて、連帯感が深まったと思います。当初は、一つの組織とした方が、活動し易いのでは無いかと考えていましたが、参加団体それぞれの立場と本来の活動目的も異なるため、協力関係の中で活動するネットワーク組織としました。そのため意見を調整するための会議は多くなりましたが、これからリサイクル活動を始めたいと言う団体が出てくれば新たに参加し易いため、門戸を開く意味では良かったのではないかと思います。

### 参加団体

摂津祭りサイクルネットワーク参加団体：大学祭模擬店実施委員会  
スチューデントアクション  
甲南大学生生活協同組合

摂津祭当日の協力団体：自治会中央委員会  
体育会本部  
学生会館管理運営委員会

### 準備経過（会議での打ち合わせ経過）

9月17日（水）摂津祭りサイクルへの取り組みについての準備会議

参加団体： 大学祭模擬店実施委員会  
スチューデントアクション  
生協学生委員会  
甲南大学生生活協同組合

議題）第39回摂津祭にあたり、リサイクル活動への参加方法ならびに組織づくりについて話し合われた。

9月20日（土）摂津祭りサイクルネットワーク準備会議

参加団体： 大学祭模擬店実施委員会  
スチューデントアクション  
生協学生委員会  
甲南大学生生活協同組合

議題）摂津祭りサイクル活動のための組織については、昨年同様、協力関係を基とした、ネットワーク組織で企画ならびに組織づくりについて話し合った。摂津祭開催までの会議の開催予定等、当日の協力団体の呼びかけ等について話しあった。

9月26日（金）摂津祭りサイクルネットワーク準備会議

参加団体： 大学祭模擬店実施委員会  
スチューデントアクション  
生協学生委員会  
甲南大学生生活協同組合

議題）前回の会議を受けて、各団体でのリサイクルネットワークへの参加について確認し、

今後の会議予定ならびに話し合うべき内容について検討した。

10月7日(火) 第1回摂津祭リサイクルネットワーク会議

参加団体(リサイクルネットワーク参加団体):

大学祭模擬店実施委員会  
スチューデントアクション  
甲南大学生生活協同組合

議題) リサイクルネットワークの立ち上げにあたり、活動目的ならびに今年度の目標について、話し合った。目的としては、「摂津祭を通じて来場者ならびに参加する学生にリサイクルの大切さを伝えて行く。」目標「回収率50%」。リサイクルの具体的な方法として、昨年の反省点を基に、汁もの対策を考えていく、また回収ボックスについては透明のものにするなどを話し合った。その他、リサイクルボックスに投入口をつくれば、その他のゴミが捨てにくいのではないか等の意見が出された。

10月14日(火) 第2回摂津祭リサイクルネットワーク会議

参加団体: 大学祭模擬店実施委員会  
スチューデントアクション  
甲南大学生生活協同組合

議題) リサイクルボックスの設置場所についての検討ならびにリサイクルの方法について話し合った。

1. リサイクルボックスについて、買い物かごに透明袋を入れて回収ボックスとする。  
(9カ所) また、設置場所は以下の通りとした。

a) 設置場所

- (1) 正門
- (2) 1号館前楠まわり3カ所
- (3) 3号館前模擬店37と36の間
- (4) 5号館横
- (5) 2号館前模擬店61番横
- (6) 2号館横模擬店70番横
- (7) 図書館横模擬店60番横

b) バケツをリサイクルボックス横に設置する。排水については生協のグリストラップにて処理。

c) リサイクル透明袋について営業許可渡し時に一括手渡し。(11/7までに模擬店実施委員へ)

d) ゴミ箱のリサイクルボックス横への異動について検討。

e) ゴミ箱にPOPをはる。リサイクルボックスに捨てるように。

f) チェック会場の場所についてPOP裏に書いておく。

g) チェック会場ゴミステーション前にて予定。

10月21日(火) 第3回摂津祭リサイクルネットワーク会議

参加団体: 大学祭模擬店実施委員会  
スチューデントアクション  
甲南大学生生活協同組合

議題) 摂津祭でのリサイクルの情報宣伝活動について話し合った。

1. 立て看板について

a) 3カ所設置(校舎の配置図と併用)

(1) 10号館前

(2) 図書館前

(3) 1・2号館前

2. ホームページへの掲載について

### 3. ポスターについて

- a) 「模擬店で使用されている、トレーならびに丼容器はリサイクル容器です。」を明記する。
  - b) リサイクルBOX用ポスターについて（生協が準備）
    - (1) 昨年のを基本に、もう少し写真を大きくする。
    - (2) 貼り方に工夫をする。（実物の剥がしかけをつけるなど。）
    - (3) 地図を別に分けておく B（今年の配置予定、チェック会場の場所など。）
    - (4) 各店舗の透明袋用にPOPを作成する。
    - (5) 11/7 までに 80 部 B4 にて準備する。
  - c) 呼びかけ用ポスターについて（スチューデントアクションが準備）
    - (1) 2～3 種類のポスターを作成する。（堅く回収後を説明するものと一般的なもの）
    - (2) 11/13 までにポスターA3 を準備
4. ポスターだけではなく呼びかけの方が直接的で大切では。
5. 各模擬店への連絡方法について
- a) チェック会場の説明と時間帯については説明会時に伝える。
  - b) 各団体にリサイクル後について資料を配って伝えておく。
  - c) 各団体ポスターを貼ることについては説明会時に伝えておく。
  - d) ポスター等については営業許可時に手渡し。

10 月 27 日（月）第 4 回摂津祭りリサイクルネットワーク会議

参加団体： 大学祭模擬店実施委員会  
スチューデントアクション  
甲南大学生協

議題) 摂津祭でのリサイクルの情報宣伝方法ならびにリサイクルの方法について話し合った。

#### 1. 情報宣伝活動について

- a) スチューデントアクションの展示スペースを借りて、回収された容器を展示する。
- b) その後生協の 1F を使用して展示をする。

#### 2. リサイクル方法について

- a) ごみ箱について
  - (1) 各リサイクルコーナー毎に 2 種類の回収 BOX を設置（合計 18 カ所）
  - (2) 各模擬店分については透明袋 4 日分を各模擬店に渡しリサイクル用とする。（合計 75 団体）
- b) トレー回収時
  - (1) ぞうきんを用意し、汚れたものについては拭き取る。
- c) 当日の作業について
  - (1) 設置作業（午前 10 : 00～）楠木周辺に集合
    - (a) 準備物
      - i) 買い物かご
      - ii) バケツ（予備があれば机下に置いておく。）、ざるの準備。
      - iii) 机・ごみステーション横のプレハブより
      - iv) ゴミ箱・大学内のゴミ箱異動
    - (2) 回収作業・チェック作業（午後 16 : 00～）チェック会場に集合
      - (a) バケツについて見回りをして行く。
        - i) 時間（12 : 00～ 14 : 00～）
        - ii) 人数 各団体から 2 名づつ
      - (b) 集合場所 楠木前に集合

i) 汚れたトレーについては拭き取る。

(1) 準備物

(a) 巾 10 枚ほど

(c) 各模擬店のチェックリストにて準備をする。

(d) チェック会場で各模擬店の未使用分について聞き取る。

(e) 各模擬店にて未使用のリサイクル容器についてもシートを剥がした上で、リサイクルに回す。

(f) 回収されたリサイクル容器について展示期間中については、スチューデントアクションの部屋にて保管を依頼。

11 月 11 日 (火) 第 5 回摂津祭リサイクルネットワーク会議

参加団体： 大学祭模擬店実施委員会  
スチューデントアクション  
甲南大学生生活協同組合

議題) 摂津祭当日の役割分担ならびに掲示物等について最終確認し合った。

## 活動結果

当初予定されていた、11 月 20 日の模擬店が雨天のため中止になり、3 日間の活動となった。リサイクルボックス周辺でリサイクルされている様子を見てみると、甲南大学の学生は言われなくても、リサイクル容器のシートを剥がし、リサイクルボックスに入れていたように思う。最終日の 22 日 (土曜) 23 日 (日曜) については、外からの来場者が多いためか、ゴミ箱にリサイクル容器が捨てられている場面が多く見受けられた。これからの課題と思われました。

また、今年是用務員の方々のご協力もあり、リサイクルボックスの中については、比較的清潔な状態に保たれていました。

【回収率】 69.78% (昨年 35.5%)

【回収数】 14,445 個 (昨年 8,568 個)

## リサイクル活動を振り返って

今年度は、スチューデントアクションを始め、当日参加して頂いた、学生の皆さんが積極的にに関わり、回収率として約 70%回収することが出来ました。関わられた方々の頑張りに、関心すると同時に、学生の皆さんの真剣な姿勢に感銘を受けたリサイクル活動だったと思います。今年度は大学祭実施委員会が積極的に大学と話し合いについても動いてくれたので、用務員の方々の協力が得られた点も心強かったと思います。次年度については、打ち合わせの早い段階から用務員の方々と意見交換をするなど、よりコミュニケーションを密にとって行ければと思います。

今年度は「リサイクルの大切さを伝えていく」ことも目的の一部となっていたので、回収されたリサイクル容器を使って、展示をするなど新たな取り組みも出来ました。スチューデントアクションの展示スペースをお借りしました。そのため、当初に話し合われた目的に添ったリサイクル活動となったのではないのでしょうか。



リサイクル呼びかけ用ポスター



リサイクルネットワーク会議



リサイクルBOX 設置作業





リサイクルBOX 設置作業



リサイクルBOX



汚れた容器を洗う作業



回収容器 展示の準備



回収容器の展示





# 循環型大学へ

中谷 修文、白井 義清、中岡 生瀬、野田 かおり  
(人間科学科2年 環境学基礎論受講生)

## A班の目的

今回、私たちは大学内のごみの分別とリサイクルと校内の破損を取り上げ、また学生の大学に対する意識を調査することで大学をより学びやすく、無駄がなく、きれいで居心地の良い自然のある循環型大学にすることを改めて考えようと思います。

## A班のテーマ

- ・学園祭での取り組み
- ・校内破損の現状
- ・アンケート結果（リサイクルと校内破損について）
- ・問題提起

### 1.学園祭での取り組み(2003年11月20日～24日)



写真1. 模擬店前での分別・回収



写真2. リサイクル容器の回収



写真3. 学園祭内でのゴミの分別



写真4. リサイクル回収ボックス



写真5. リサイクル容器のチェック会場



写真6. 学園祭中の回収経過



写真7. 学園祭のリサイクル活動報告

第39回 摂津祭リサイクル容器回収数

回収数	トレ- (大)	トレ- (中)	トレ- (小)	井 (大)	井 (小)	未使用回収分	合計
11月21日	41	212	1391	125	844	74	2687
11月22日	153	392	2475	612	1840	53	5525
11月23日	312	446	2994	703	1390	388	6233
回収数合計	506	1050	6860	1440	4074	515	14445
販売数	700	2500	10800	1900	4800		20700
回収率	72.28%	42.00%	63.51%	75.78%	84.87%		69.78%

2. 校内破損の現状

～学生のモラル～



写真8. 10号館の1階のいす



写真9. 10号館の1階の机



写真 10. 1021 教室の壁 1



写真 11. 1021 教室の壁 2



写真 12. 10 号館 2 階の廊下



写真 13. 5 号館の裏の植木



写真 14. 1021 教室の机に放置されたごみ



写真 15. 10 号館裏の灰皿



写真 16. 5 号館前の看板

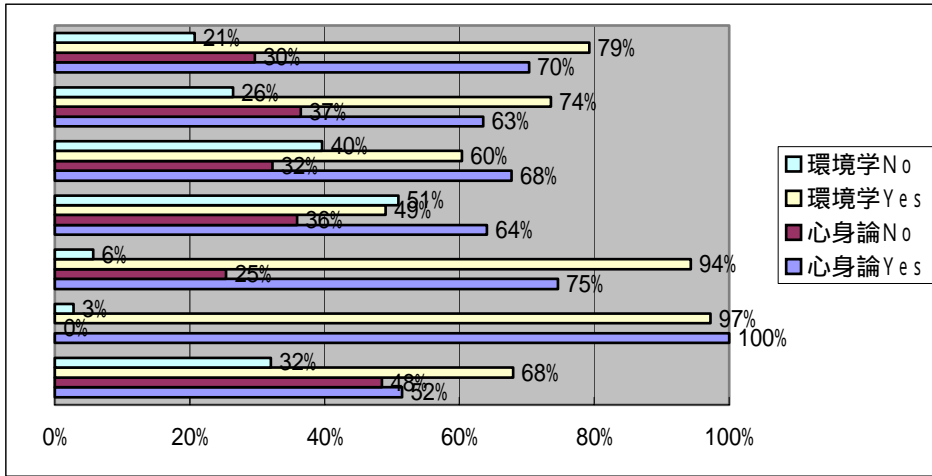


写真 17. 5 号館の前

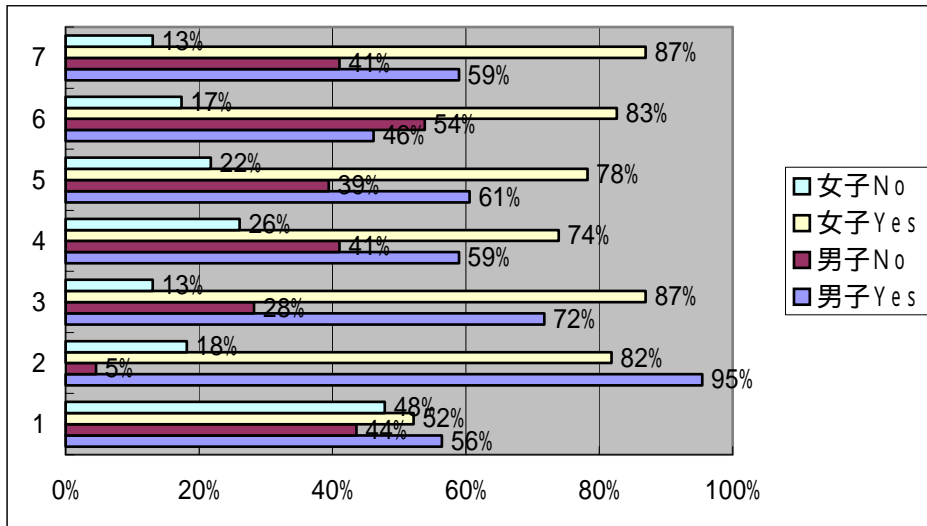
### 3. アンケート結果

(リサイクルと校内破損について)

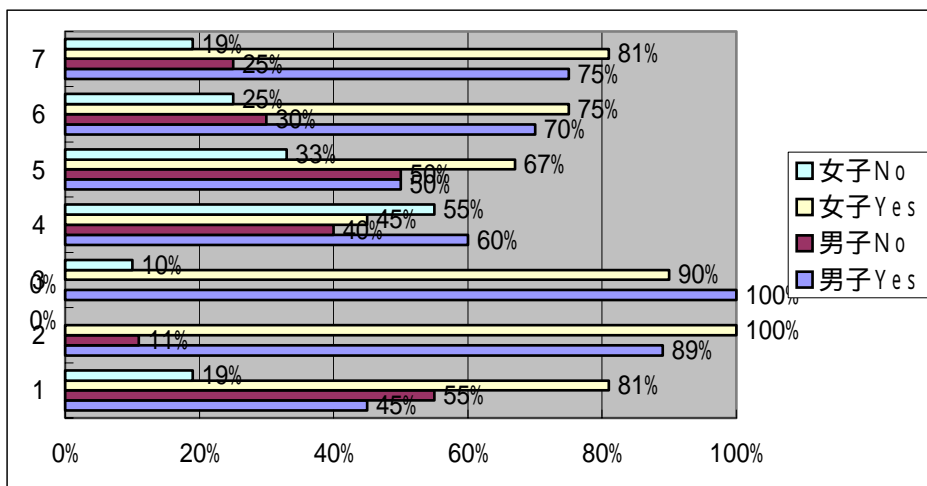
#### 環境学基礎論と心身論の比較



#### アンケート結果 (心身論)



#### アンケート結果 (環境学基礎論)



## アンケートで出た意見

### 2. 普段の学校生活でリサイクルやゴミの分別を行っていますか？

- YES・・・紙コップのデポジット、学校の弁当のリサイクル
- NO・・・面倒くさい

### 5. 現在の甲南大学のリサイクル制度で十分ですか？改善点は？

- ・デポジットの数を増やしてほしい
- ・もっとわかりやすく表示してほしい（立て看板など）

### 7. 甲南大学の生活は快適ですか？より快適にするにはどうすれば良いですか？

- YES・・・空き時間に休憩する場所が多くてよい、学内がきれい
- NO・・・もっとベンチを増やしてほしい、学内全禁煙にする

### 9. 日常生活においてリサイクルや分別を行っていますか？

- YES・・・ペットボトルを分別している、牛乳パックなどを回収してもらっている
- NO・・・面倒くさい、分け方がわからない（親にまかせている）

### 10. 甲南大学に対して何かありますか？

- ・学生の身の回りの環境に対する意識が低い、もっと呼びかけを行ってもよいのでは
- ・生協前の階段が危険だと思う
- ・ポイ捨てが多い（携帯灰皿を持つように勧めては）
- ・灰皿をもっと増やしてほしい
- ・自習室に雑談をしにこないでほしい

## 4. 考察

今回、A 班では学園祭での取り組みと校内破損の現状の調査、リサイクルと校内破損についてのアンケートを行った。

学園祭での取り組みは、これまでの循環型大学の取り組みとしての努力により、顕著な成果が上げられているように感じられた。アンケートの結果からも、学生の環境への意識の高さがうかがえた。

しかし、一方で校内破損の現状を調査して感じたことは、学生たちの心の環境が損なわれているということである。壁の破損や放置されたゴミといったものが表しているのは、行為のみを考えるだけではなく、感情論で片付けてしまうだけではなく、他者や大学という共有される環境をより深く考えるきっかけにもなるのではないだろうか。表層的に校内破損は他者の行為と切り離してしまうことはたやすいが、なぜそのような行為をするのかを考えてみた時、自分の視点から他者への視点へ移動し、大学という共有される環境での私たちの在り方が見えてくるように思われる。

## 5. 問題提起

リサイクルを徹底するにはどうすればよいか？

校内破損について「悲しい」など様々な意見がありましたが、減らす（なくす）ために私たち1人ひとりができることは？

# 甲南大学のポイ捨ての現状

三浦 亜理沙、中村 紗綾佳、中山 智草、長谷川 絢子  
(人間科学科2年 環境学基礎論受講生)

## 1. はじめに ～甲南大学の灰皿とポイ捨ての現状～

まず、喫煙場所に関して、8号館前に設置されている灰皿に空き缶や煙草の箱などといった吸殻以外のごみが入っているのが目に付く。また、喫煙場所の周りにはたくさんの吸殻が落ちている。

5号館内は禁煙であるにもかかわらず階段に煙草の吸殻が落ちていて、キャンパス内のあちらこちらで煙草の吸殻が目につく。

次に燃えるごみに関して、教室内に空のペットボトルやお菓子の箱が落ちていたりする。また分別するためのゴミ箱が設置されているにもかかわらず、ゴミ箱の中を見てみると分別されていないものもある。

## 2. 清掃員の方へのインタビュー (11月25日)

### (1) インタビュー内容

- ①甲南大学の学生のマナーはどういった現状か。
- ②掃除をしていて感じること。
- ③問題点は何か。
- ④改善点は何か。

### (2) 回答結果

- ①「甲南大学の学生のマナーはどういった現状か」についての回答
  - ・ごみに関しては、全体的に見るときちんと分別されていてマナーは良い方である。
  - ・一部の生徒は非常にマナーが悪い。
  - ・煙草に限ってはポイ捨てが非常に多い。
  - ・男子トイレの使い方が非常に悪い。
- ②「掃除をしていて感じること」についての回答
  - ・灰皿の横にたくさん落ちている。
  - ・夕方落ちている煙草を翌朝綺麗にする。その繰り返しである。
- ③「問題点は何か」についての回答
  - ・灰皿の数が少ない。
  - ・甲南大学の節電対策の為、暗くて掃除がしにくい。
  - ・教室にもポイ捨てをしている。ペットボトルや煙草など。
  - ・カーペットのジュースのシミ、へばりついたガム。
  - ・ごみが分別されずに捨てられていることがある。
- ④「改善点は何か」についての回答
  - ・灰皿の数を増やす。
  - ・ペットボトルも紙コップのデポジットのようにする。
  - ・個人の意識の向上。

### 3. ポイ捨てへの取り組みについて

#### (1) 甲南大学の取り組みについて

- ・ポイ捨て禁止ポスター（8号館前）
- ・人通りの多い場所（3号館前）では禁煙となった。
- ・生協での携帯灰皿の販売（一個310円）

#### (2) 地域の取り組み

##### ① ポイ捨て禁止条例

1) 「ごみのポイ捨てをなくし、神戸の町を美しくするため、タバコの吸殻や空き缶等のポイ捨てを禁止する「神戸市タバコの吸殻および空き缶等の投げ捨て防止等に関する条例」（「ポイ捨て禁止条例」）が平成9年6月1日に施行された。条例では、「ポイ捨て防止重点区域」でのポイ捨てに対して、2万円以下の罰金を規定している。これにより、散乱ごみの量は減少している。

2) 駅前や観光地など多くの人が行き来する場所を「ポイ捨て防止重点区域」と指定している。

##### ② アダプトプログラム：住民参加型の環境管理（神戸市東灘区）

対象地域は阪急岡本駅とJR摂津本山駅を結ぶ商店街を中心に、都市景観形成地域及びポイ捨て防止重点区域に指定された地域である。この2つの駅は、対象地区周辺に立地している3つの大学（甲南大学、甲南女子大学、神戸薬科大学）の最寄駅であり、大学生でにぎわう若者の街とも言える。

活動としては、美しい町岡本協議会、本山中央婦人会、岡本商店街振興組合の3段階によるクリーン作戦の実施、他団体への呼びかけ、駅前キャンペーンなど。

### 4. 喫煙者の問題点

ポイ捨ては、特に考えて捨てているわけでもなく（罪の意識なく）無意識にやってしまう場合が多いという意見があった。しかしこの背景には、学校を自分の関係ないものとして捕らえるといった意識の低さがあるのではないだろうか。自分がポイ捨てをしても清掃員の方が片付けてくれるだろうという考えや、また、そのような考えをもっていないとしても、自分自身は何もしなくても次の日には自動的にきれいになっているという状況から、清掃員の方が掃除してくださっているという事実を忘れている人も多いだろう。

一方、「以前は平気で歩き煙草や、ポイ捨てをしていたが、その行動がどれほど他人に迷惑をかけているかを考えてからしなく、今では、ポイ捨てをしている人を見ると腹が立つ。ポイ捨てというのは一人一人が意識すれば簡単にできることである。」という喫煙者の意見も見られた。

### 5. まとめ ～改善点～

ポイ捨てにおいて、煙草の吸殻に関することが多かったが、喫煙者だけの問題では決してない。喫煙者以外にもまたどのようにすればよいかを考え、お互いが気持ちよく過ごせる環境を創り出すことが重要になってくる

ポスターなどの煙草ポイ捨て防止PRがなされているにも関わらず、ほんの一部の喫煙者によるポイ捨てがあるのが現状である。そこで大切なのは喫煙者の意識である。具体的には単に喫煙場所を減らすのではなく、バランスよく喫煙場所を決め、喫煙者がその場所を把握し、自分たちが使っているその場はきれいにしておこう、そして、「煙草は灰皿へ」という強い意識が必要であると思われる。

禁煙者も自分が煙草を吸わないからといって他人事として考えず、自分の身の回りが汚れていたら注意して拾うという当たり前の行動が改善につながる。そうすることによって喫煙者も禁煙者も両者が快適な生活をおくれるだろう。

上述したことは、煙草の吸殻以外のポイ捨てをなくすことにもつながる。

私たちがこの調査をしてきて感じたことは、清掃員の方々の存在、学校側の取り組み、学生たちの少しでもポイ捨てをなくそうという自覚と行動、これらがうまく循環し合うことで「快適な環境」が生まれるのではないかということだ。



## 『自給自足生活の体験学習塾』設置の提言

「震災の教訓を踏まえて—これからの神戸の魅力づくりについて—」の提言募集・優秀賞受賞

高木 敬子（文学部人間科学科谷ロゼミナール3年）

### はじめに

私たちは、学生部主催の「甲南 21 クリエイティブ・プラン」において 2001 年度、2002 年度、2003 年度と企画応募し、優秀賞をいただきました。2003 年度は、「甲南大学における持続可能な循環型コミュニティの創造」というテーマで「持続可能な sustainable」を新たにキーワードとして加え様々な諸活動を展開してきました。具体的に、キャンパス内ではボトムアップ型の環境活動としてゴミ分別・リサイクルの促進・緑化、甲南大学環境教育野外施設（広野）ではパーマカルチュアの構築や自給自足生活による循環型コミュニティの「原型の体験」などをおこなってきました。

これらの活動を通して、それぞれの活動が別個のものとして終わるのではなく、より濃度の濃いパートナーシップの構築や持続可能な未来と社会づくりに貢献するようなネットワーク化を図ることを目指しています。さらに、次世代・将来に向けて展開できる環境活動を通して循環型コミュニティの創造へつながるように考えています。

### 神戸市の「これからの神戸の魅力づくりについて」提言への応募

私たち谷ロゼミでは、2003 年 8 月 16 日（土）～20 日（水）の 5 日間、甲南大学環境教育野外施設において循環型コミュニティの「原型の体験」として「自給自足生活の体験学習」を行いました。

そして、その体験をもとに、神戸市が公募していた「震災の教訓を踏まえて—これからの神戸の魅力づくりについて—」に応募し、「自給自足体験学習塾」設置の提言をおこないました。

簡素な生活環境の中で、現代の私たちが忘れていた自然との共生、自然の恩恵、自然に対する尊敬と畏怖の念、生命を支える水や火や電気などのエネルギーの大切さを学ぶことができ、さらに集団生活から学び得る人の温かさや協力を通し、地域の環境意識を高め、豊かな感性を育むことができるでしょう。また、阪神淡路大震災時の経験を生かして、人々の温かい触れ合いがある神戸市、そして豊かな自然と共生している神戸市を目指してみてもどうかと考えました。神戸を今よりもっと魅力あるまちにつくりあげ、神戸から環境意識の高い地域の人材を全国へと広げられるよう目指し、「自給自足体験学習塾」設置による地域の人材育成を提言しました。

### 「自給自足体験学習塾」の提言

(神戸市の「これからの神戸の魅力づくりについて」の提言募集・優秀賞受賞)

文学部人間科学科 谷ロゼミ  
3年生 高木敬子

### 甲南21クリエイティブプラン

#### 『甲南大学における「持続可能な」循環型コミュニティの創造』

プランⅠ：自給自足生活の体験活動

—循環型コミュニティの原型の体験—

プランⅡ：キャンパス内のボトムアップ型の環境活動

プランⅢ：水環境センターなどにおける学社連携による社会活動

プランⅣ：国際的なパートナーシップによる活動

震災の教訓を踏まえて—これからの神戸の魅力作りについて—



神戸市が公募した提言募集

### 自給自足生活の体験学習

(甲南大学環境教育野外施設において4泊5日)



竪穴式住居



完成した住居

2003年8月16日(土) — 20日(水)



有機農業による野菜



イモだけでなく茎も食料



調理方法：生野菜、焼き野菜、煮野菜

「これからの神戸の魅力づくりについて」の提言

### 「自給自足生活の体験学習塾」の10の提言

#### 提言①

この塾は自然環境の豊かな場所に開かれた体験学習施設とする



金棒池



神戸市立森林植物園

提言②

有機農業場をつくり、最小限必要な量と数種類の野菜を収穫し食料とする



自給自足生活における活動  
(堆肥づくり)



草抜き



トウモロコシ畑

提言③

水は供給場所にくみに行き、自分たちで管理して節約意識を高める



ポリバケツにためた雨水



雨水のろ過

提言④

手動式火おこし機などを使用して、火をつける体験をおこなう



手動式火おこし機



火種

提言⑤

木やわらなどの自然のものを使って、自分たちで住居をつくる



わら運び



わら・竹・麻ひもでの住居づくり

提言⑥

自給自足の宿泊体験を1年に1度はする



学生たちが育てた稲  
(専門科目「環境学基礎論」)



収穫祭



エコッキング

提言⑦

生徒、学生、市民など体験学習者は電気を使用しないが、管理事務所など電気の必要な場所に関しては、太陽光発電や風力発電などの自家発電によって施設内で使用電力をまかなう



例) 甲南大学 5号館 太陽光発電システム



**提言⑧**

携帯電話などは使用せず、人と人の密接な触れ合いを重視する



携帯電話禁止



仲間と協力しての作業  
(教職科目「総合演習」より)

**提言⑨**

震災記念日には、神戸市のライフラインを半日とめて当時の頃を回想する



震災時の甲南大学

**提言⑩**

自給自足の体験学習塾の運営は、大学生がボランティアで指導する



小学生を指導  
(文部科学省研究開発学校より)

自給自足の体験学習から

環境意識の向上・豊かな感性の育成



地域へと広がる人材の育成

**『「自給自足体験学習塾」設置による地域の人材育成』の10の提言**

- ①この塾は、自然環境の豊かな場所に開かれた体験学習施設とする。
- ②有機農業場をつくり、最小限必要な量と種類の野菜を収穫し、食料とする。
- ③水は供給場所に汲みに行くという仕組みにして、自分たちで管理して節約する。
- ④手動式火おこし機などを使用して、火をつける体験を行う。
- ⑤木やわらなどの自然のもので住居を自分たちで作る。
- ⑥宿泊の体験を1年に1度はする。
- ⑦生徒、学生、市民などの体験学習者は電気を使用しないが、管理事務所など電気の必要な場所に関しては、太陽光発電や風力発電などの自家発電によって施設内で使用電力をまかなう。
- ⑧携帯電話などは使用せず、人と人の密接な触れ合いを重視する。
- ⑨震災記念日には、神戸市のライフラインを半日とめて、当時の頃を回想する。
- ⑩運営は、大学生がボランティアで指導する。

---

編 集 スチューデント・アクション「甲南大学における持続可能な循環型コミュニティの創造」  
(甲南大学文学部・谷口ゼミナール)

協 力 財務部 大学生協

発 行 甲南大学文学部 谷口研究室  
〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1 甲南大学文学部人間科学科 谷口研究室気付  
TEL/FAX : 078-435-2368 (直通) E-mail : fmiaki@konan-u.ac.jp

印 刷 財務部

発行日 2003年12月11日(木)

---

